

平成30年度

神戸大学附属図書館資料展

古典籍七、まぜ、ま

く近世の出版物よりく

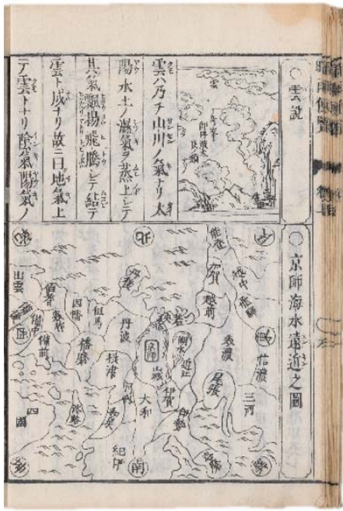
平成30年10月12日(金)～12月18日(火)

社会科学系図書館 2階展示ホール

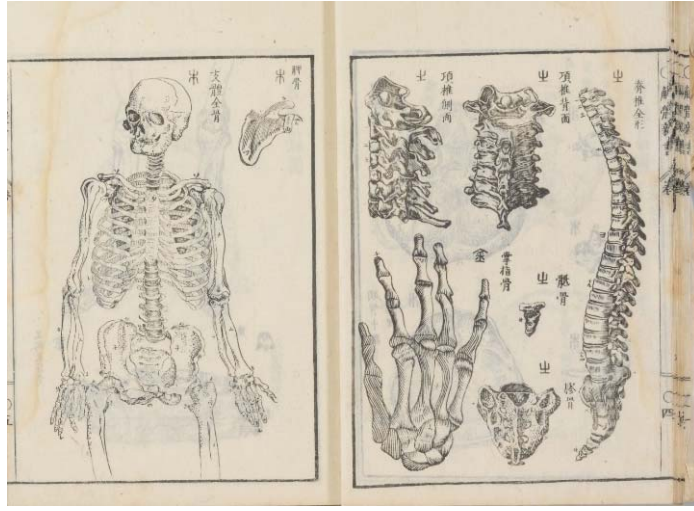
展示品目録

1. サイエンス事始

江戸時代、西洋文化は蘭学として日本に入ってきました。中でも八代将軍徳川吉宗は海外の知識や物産に高い関心を示し、享保5(1720)年に禁書令を緩和、これをきっかけに、自然科学分野の西洋書が翻訳され、出版されるようになりました。ここでは『解体新書』などの翻訳書を中心に、医学、天文学、農学など江戸時代の知識の広まりを資料から紹介します。



『増補民用晴雨便覧』



『解体新書』



『舎密開宗』

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
1-1	『天経或問』游子六輯答；西川正休訓點	刊本	1794(寛政6)年	中国清代の游子六が、イタリア人宣教師から伝えられた西洋天文学を記した天文学書。西川正休が訓点を施し出版。以後広く普及し、江戸時代の天文学者たちに大きな影響を与えた。本学所蔵分は1794(寛政6)年の校訂版。	住田文庫(社会科学系図書館)
パネル	『和蘭天説』司馬峻著	刊本	1796(寛政8)年	洋画家として著名な司馬峻(江漢)が西洋天文学を紹介した啓蒙書。コペルニクスとケプラーを混同するなど不正確な記述も数々見られるが、日本で地動説を紹介した書物としては初期のものであるといえる。	住田文庫(社会科学系図書館)
1-2	『理學入式遠西觀象圖説』吉雄俊藏口授；草野養準筆記	刊本	1825(文政8)年	西洋天文学の入門書。江戸時代末期を代表する天文学書とも言われている。しかけつきの円盤を付けるなど、読者が理解しやすいよう工夫が施されている。本学所蔵分は1825(文政8)年に補刻されたもの。	貴重書(総合・国際文化学図書館)
1-3	『増補民用晴雨便覧』中西敬房著述	刊本	1767(明和4)年	中国思想に深く根差した気象学書。上下2段組の構成で、上段では様々な大気現象の説明を、下段では「観天望気の法」を用いた天気予報法を述べる。天気予報と地形の関わりを示唆した点が高く評価されている。	貴重書(社会科学系図書館)
パネル	『風雨賦國字辨』中西如環敬房自畫遍述	刊本	1777(安永6)年	『風雨賦』という気象書を初学者にも分かりやすいように訳注し図版を付けたもので、中国の観天望気の法が紹介されている。上巻は図版集、下巻は各図版の解説集という構成になっている。	貴重書(社会科学系図書館)
1-4	『颶風新話』[ヘンレイ、ピッチングトン著]；伊藤慎君蜀譯述	刊本	1857(安政4)年	越前国大野藩の洋学者伊藤慎蔵によって重訳された、日本最初の航海用気象学訳書。「颶風(台風)」に関する知識と航海術を問答形式で紹介している。	住田文庫(社会科学系図書館)
1-5	『解体新書』與般亞單闕兒武思著；杉田玄白譯；[前野良沢譯]；小田野直武[画]	刊本	1774(安永3)年	クルムス著『ターヘル・アナトミア』を杉田玄白と前野良沢が中心になって翻訳した、日本初の西洋医学書。翻訳時に生み出された【神経】【軟骨】【動脈】などの用語は今日も使われている。	横井文庫(医学分館)
パネル	『虎狼痢治準』緒方洪菴譯述	刊本	1858(安政5)年	1858(安政5)年、コレラが江戸や大阪で大流行した。治療法が乏しい中、緒方洪庵がコレラについての3つの書物を訳しまとめたもの。洪庵の経験を交えて症状や治療法が解説されている	砂治文庫(医学分館)※
1-6	『舎密開宗』賢理[原著]；宇田川榕菴重譯増註	刊本	1837(天保8)年	日本初の体系的化学書。宇田川榕菴によって、イギリスのW.ヘンリー著“Epitome of Chemistry”のオランダ語版を基本にまとめられたもの。タイトル「せいみ」はオランダ語Chemieの音訳である。	貴重書(総合・国際文化学図書館)
パネル	『植學啓原』宇田川榕菴著	刊本	1833(天保4)年序	日本初の本格的な西洋植物学書。植物学入門の概説書であり、江戸期の本草・博物学、明治期以降の近代的植物学や薬学研究に大きく貢献した。巻末には「植學啓原図」が収録されている。	貴重書(総合・国際文化学図書館)

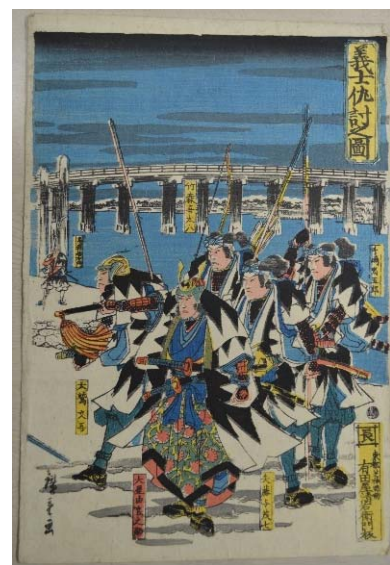
所蔵館に※を付したものは現在社会科学系図書館で保存

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
1-7	『除蝗録』大蔵永常著	刊本	1826(文政9)年	鯨油を中心とした油による蝗の駆除方法と、鯨の種類を図説した農業技術書。挿絵は長谷川雪旦による。筑前国で発見された鯨油による注油駆除法を東北地方に伝えるために書かれたもので、版を重ねて全国に広まった。	貴重書(総合・国際文化学図書館)
1-8	『除蝗録後編』大蔵永常編録	刊本	1846(弘化3)年	『除蝗録』の18年後に上梓された続編。鯨油が入手できない場合の代用品として、芥子油や菜種油、桐油、石灰等による害虫駆除法を紹介している。	貴重書(総合・国際文化学図書館)
パネル	『廣益國産考』大蔵永常著	刊本	1859(安政6)年	大蔵永常の農学の集大成といえる著作。国産(特産物)の生産奨励により農家経済の安定を促し、国益をも増すことを意図して書かれている。取り上げられている国産は農作物に限らず、人形、蠟、醤油、海苔、養蜂など多岐にわたる。	貴重書(総合・国際文化学図書館)
1-9	『訓蒙圖彙』中村揚斎著	刊本	1666(寛文6)年序	日本初の絵入り百科事典。京都の儒学者、中村揚斎によって教育の啓蒙を目的に作成された。増補改訂を重ねており、本学所蔵分はケンペルが日本から持ち帰った資料と同じ版である。	小林文庫(人文科学図書館)
パネル	The history of Japan : giving an account of the antient and present state and government of that empire, of its temples, palaces, castles and other buildings ... / written in High Dutch by Engelbertus Kämpfe...	図書	1728年	1690(元禄3)年来日したオランダ東インド会社の医師エンゲルベルト・ケンペルが、当時の経験を元にヨーロッパで初めて日本を体系的に紹介した書物。挿絵に『訓蒙圖彙』が利用されている。	貴重書(社会科学系図書館)
1-10	『旧人体之図』(レプリカ)	卷子本	1661(寛文1)年[刊]	江戸時代の医学は『解體新書』で西洋医学が紹介されるまで中国医学を元に発展していた。『旧人体之図』では鍼灸の経穴が描かれた「明堂図」と臟腑図の計4枚が巻子の形で伝えられている。	砂治文庫(医学分館)※

所蔵館に※を付したものは現在社会科学系図書館で保存



『訓蒙圖彙』



義士仇討之圖

2. 庶民の教養と娯楽

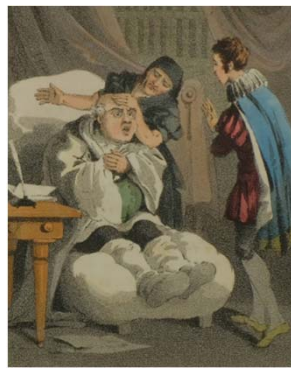
この時代には、数多くの文芸作品が執筆・出版されました。それに伴い、庶民の間にも読書を愉しむ文化が広まりました。ここでは当時のベストセラーである『膝栗毛』シリーズなどの戯作類や、『小倉百人一首』の影響を受けて編纂された「異種百人一首」など、近世庶民の教養・娯楽に関する資料を展示します。あわせて、同時代に英国で出版され、広く庶民に受け入れられた小説等の文学作品についても紹介します。

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-1	『再板假名手本忠臣蔵』竹田出雲 ; 三好松洛 ; 並木千柳作	刊本		赤穂事件をモチーフとして『太平記』の時代に内容を移して作成された人形浄瑠璃の台本。歌舞伎などでも上演され、現代では一連の事件を「忠臣蔵」と呼ぶようになるほど人口に膾炙した作品となった。	貴重書(総合・国際文化学図書館)
パネル	義士仇討之圖 廣重画	浮世絵		歌川広重による『假名手本忠臣蔵』の一場面を描いた浮世絵。役者絵ではなく作品の内容を描いた作品であり、大星由良之助を中心に雪の中吉良邸討入直前の赤穂浪士たちの様子を描いている。	郷土資料(総合・国際文化学図書館)
パネル	四段目: 大星由良之助 豊国画	浮世絵		『假名手本忠臣蔵』四段目における、塩谷判官形見の刀を手にした大星由良之助の姿を描いた浮世絵。袖の模様は正面摺の技法を使って描かれている。三代目歌川豊国(国貞)の作品。	郷土資料(総合・国際文化学図書館)
パネル	『忠芬義芳詩巻』河原寛士栗輯 ; 土井有格士恭校	刊本	1859(安政6)年	赤穂藩の儒学者河原翠城が赤穂浪士を顕彰する目的で江戸末期に編纂した漢詩集。赤穂浪士ゆかりの事物に寄せた詩を収集しており、詩作者の居住地は全国にわたっている。	郷土資料(総合・国際文化学図書館)
2-2	『赤城義臣傳(扶桑義臣傳)』片島深淵子編	刊本	1868(慶應4)年	片島武矩が赤穂浪士の十七回忌にあたり、その義勇を顕彰する目的で1719(享保4)年に執筆した作品。本書は明治改元の直前にあたる1868(慶應4)年に再版されたもの。	郷土資料(総合・国際文化学図書館)

No.	資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-3	『東海道中膝栗毛』十返舎一九著	刊本	1802-1814(享和2-文化11)年	江戸・八丁堀に住む弥次郎兵衛と喜多八(北八)が大坂まで東海道を旅する間に起こすドタバタを描いた滑稽本の代表作。挿絵の多くも一九自身が画いている。	貴重書(総合・国際文化学図書館)
2-4	『播州膝栗毛』十返舎一九著	刊本	1813(文化10)年	『東海道中膝栗毛』の弥次喜多が播州を巡る道中記。1812-1813(文化9-10)年に一九は播州旅行をしたと言わせており、その際の体験をもとに書かれた作品のようである。	郷土資料(総合・国際文化学図書館)
2-5	『播劔廻り膝栗毛』彦玉著	刊本	1807-1824(文化4-文政7)年	江戸に住む男二人が播州を巡る道中記。著者の彦玉については詳しいことは分らないが、浪花魚市辺との記載があるので、大坂の魚市場近くに住んでいた戯作者と思われる。	郷土資料(総合・国際文化学図書館)
パネル	『西洋道中膝栗毛：萬國航海』假名垣魯文戯著	刊本	1870(明治3)年序	『東海道中膝栗毛』の弥次喜多の孫がロンドンの万国博覧会へ行くまでの道中記。当時の西洋ブームを受けてベストセラー本になった。	住田文庫(社会科学系図書館)
2-6	『昔話稻妻表紙』山東京傳著；歌川豊國繪	刊本	1806(文化3)年	近松門左衛門の浄瑠璃などをもとにした、名古屋山三郎の不破伴左衛門に対する仇討などを描いた作品。山東京伝による読本中の代表作で、挿絵は歌川派隆盛の基礎を築いた初代豊國が描いている。	小林文庫(人文科学図書館)
2-7	『椿説弓張月』曲亭馬琴作；葛飾北斎畫	刊本	1807-1811(文化4-8)年	『南総里見八犬伝』の作者曲亭馬琴による読本中の傑作で保元の乱から琉球に至る鎮西八郎為朝の活躍を描いた大作。挿絵は葛飾北斎が担当しており、波や光の描写などに独特の筆致が見える。	小林文庫(人文科学図書館)
2-8	『修紫田舎源氏』柳亭種彦作；歌川國貞画	刊本	1829-1842(文政12-天保13)年	柳亭種彦による合巻の代表作。『源氏物語』を室町時代を舞台に翻案した作品で、その優美な内容と歌川国貞(三代目豊國)による華美な挿絵・口絵で、主に女性読者の間に非常に大きな流行を巻き起こした。	小林文庫(人文科学図書館)
2-9	『後撰百人一首』[二条良基撰?]; 筒井尚堂書伯手澤；淵上旭江畫宗繪	刊本	1807(文化4)年	二条良基撰と伝えられるが、後世の偽撰ともみられている。多くの歌は勅撰集から採られているが、私撰集からもいくつか選ばれている。時代は平安前期から南北朝時代で、時代的配列ではない。	小林文庫(人文科学図書館)
2-10	『列女百人一首』緑亭川柳輯；葛飾巳老人、一陽齋豊國畫	刊本	1847(弘化4)年	『英雄百人一種』に対応するものとして刊行。北斎と三代目豊國(国貞)が絵を手がける。貞女や烈婦と呼ばれる女性の中で和歌の道に志のあるものを選んだとしていて、上段には略伝・逸話が載っている。	小林文庫(人文科学図書館)
2-11	『秀雅百人一首』緑亭川柳輯；前北齋巳老人 [ほか] 畫工	刊本	1848(弘化5)年	『英雄百人一種』『列女百人一種』が好評で出したもの。諸名画集筆として北斎・国芳・国貞らが絵を手がけ、当時いかに流行っていたかが伺える。歌人は中・近世歌人のほか、茶人や武人など様々。	小林文庫(人文科学図書館)
パネル	スカーバラの貸本屋	挿絵	1994年 清水一嘉著 『イギリスの貸本文化』	当時、高額な本を購入する余裕があるのは限られた人々のみだったが、貸本屋やブック・クラブの出現により、多くの人々が低コストで読書に親しむことができるようになった。	国際文化学図書館
2-12	『The History and adventures of the renowned Don Quixote』translated by T. Smollett	図書	1761年	当館所蔵のこの2作品は、いずれも18世紀中ごろから19世紀初頭、貸本屋やブッククラブが多く存在した当時にロンドンで出版されたものである。この時代は、小説というジャンルが生まれ、広がった時代でもあった。	人文科学図書館
2-13	『The adventures of Gil Blas de Santillana』translated by T. Smollett	図書	1819年		人文科学図書館
パネル	『The Iliad of Homer』translated by Alexander Pope	図書	1806年	日本国内の図書館にも所蔵が散見されるように、ポーブによるホメロスの翻訳は18世紀から19世紀初頭にかけて、イギリスで頻繁に出版されていたようである。当館では1806年に出版された翻訳集を所蔵。	人文科学図書館



『修紫田舎源氏』



『The adventures of Gil Blas de Santillana』挿絵



『東海道中膝栗毛』